



vol.2

JAPAN FINAL 2002

10/26,27 開催

- J-Finalに向けて
- スケジュール・ルール
- 来日ゲスト
- Wチャンプ手記



ジャパンファイナル 2002 チャンピオンシップに向けて

近年、人の生活は少子化、高齢化、独居化へと変化し続けておりますが、このような現象に合わせてペットを家族の一員と考える傾向が強くなってきているのが現状だと思われます。

一方、年々登録犬の増加につれて、様々な問題が生じていることも事実です。特に飼い主のマナー欠如に起因することが多く、捨て犬など管理責任放棄等も大きな社会問題となっております。愛犬とのしつけと合わせ飼い主としての責任の自覚、マナーの向上が求められているわけです。

欧米諸国に於いてはペットではなくパートナーとして犬を扱い、犬の人格まで認めていると聞きます。わが国では番犬としての認識は弱くなっています一方、パートナーというよりも愛玩動物としての色が濃くなっているような感じも致します。

1994年に発足し、全国へ普及いたしてまいりましたフリスピードッグではありますが、これからも社会との正しい共生をめざし、各本部・支部・クラブ及び、インストラクター共々努力致したいと思います。「人間と犬との共生」「地域社会との共生」をテーマに「人と犬とのより良い関係」を目指し、より多くの人々に着目していただき、再考の機会をとを考える次第です。

JFA 日本フリスピードッグ協会

代表 山田 仁



JFA JAPAN FINAL 2002 開催プログラム

10月26日（土） JFA全日本フリスピードッグ2002年度部門別チャンピオン決定戦

7時45分	選手受付	
8時30分	開会式	
	選手紹介	
	メダル授与式	
	始球式：マーク・モルナー氏	
9時15分	シニアドッグの部	予選第1ラウンド／第2ラウンド
10時10分	レディースチャンピオンシップ	予選第1ラウンド
11時00分	小型犬の部	予選第1ラウンド／第2ラウンド
11時50分	ロングディスタンスチャンピオンシップ	予選ラウンド
13時15分	レディースチャンピオンシップ	予選第2ラウンド
14時00分	ペアの部	予選第1ラウンド／第2ラウンド
15時00分	シニアドッグの部	チャンピオン決定戦
	小型犬の部	チャンピオン決定戦
	ペアの部	チャンピオン決定戦
	レディースチャンピオンシップ	チャンピオン決定戦
15時30分	表彰式	

アトラクション

10時00分	マーク・モルナー氏によるスローイングポイントレッスン（30分間）
11時00分	しつけ＆フリスピードッグHOWTO（45分間）
14時00分	マーク・モルナー氏によるスローイングポイントレッスン（30分間）

10月27日（日） JFA全日本フリスピードッグ日本一決定戦

8時00分	選手受付	
8時45分	開会式	
9時00分	ロングディスタンスチャンピオンシップ	チャンピオン決定戦
9時30分	メダル授与式・2001カップ返還 来賓：衆議院議員 吉田六左衛門様 ゲスト：エルドン・マッキンタイア氏 始球式：マーク・モルナー氏	
10時15分	グランドチャンピオンシップ	予選第1ラウンド
12時00分	フリーフライトチャンピオンシップ	予選第1ラウンド
13時00分	グランドチャンピオンシップ	予選第2ラウンド
14時30分	フリーフライトチャンピオンシップ	予選第2ラウンド
15時00分	フリーフライトチャンピオンシップ グランドチャンピオンシップ	チャンピオン決定戦
15時30分	マーク・モルナー氏	チャンピオン決定戦
15時50分	表彰式／閉会式	ロングディスタンス（デモンストレーション）

2002年度表彰式典・ウェルカムパーティー

10月26日（土）

17時45分	式典会場集合（万代シルバーホテル）
18時00分	表彰式典・パーティー受付
18時30分	表彰式典
19時15分	ウェルカムパーティー
20時30分	終了

ジャパンファイナルルール

■グランドチャンピオンシップ

60秒2ラウンド制。決勝ラウンド7チーム。

予選第1ラウンド獲得得点0ポイントのチームは第2ラウンドへの進出は出来ません。

■フリーフライトチャンピオンシップ

3ラウンド制。第1ラウンドは“フリースタイル”90秒。

第2ラウンドは45秒にて“ディスタンス”を実施。第1ラウンド・第2ラウンドに於ける合計得点上位7チームにて決勝ラウンド、“フリースタイル”90秒を実施。

■レディースチャンピオンシップ

60秒2ラウンド制。決勝ラウンド5チーム。

予選第1ラウンド獲得得点0ポイントのチームは第2ラウンドへの進出は出来ません。

■ロングディスタンスチャンピオンシップ

男子の部／女子の部共に90秒1ラウンド制。

男子の部、女子の部共に26日（土）の上位3チームが翌日27日（日）の決勝ラウンドへ進出。

但し、2日間の記録の中で最長記録を出された選手がチャンピオンとなります。

（27日（日）の決勝ラウンドで26日（土）の記録を超えられなかった場合は26日（土）の記録保持者が優勝となります。）

■各部門別チャンピオン決定戦（シニアドッグの部・小型犬の部・ペアの部）

60秒2ラウンド制、決勝ラウンド3チームにて実施。

※全ての競技、決勝ラウンドに於いて、同一オーナー犬出場は1頭と致します。

※発情犬は同日、練習用コートにて予選ラウンドを行います。

記念Tシャツ・記念トレーナー販売！！



会場にてジャパンファイナル2002記念Tシャツ・記念トレーナーの販売を致します。
本年度は予約販売を致しません。数量限定ですので、お早めに会場にてお買い求め下さい。

来日ゲスト紹介



マーク・モルナー

マーク・モルナー氏は世界でもトップレベルの遠距離選手です。一般的のフリスビー投げでは、198メートル以上の記録を保持しております。この記録を破っている選手は世界に7名しかおりません。競技で公認されているモルナー氏の遠距離上位3記録は、198メートル、195メートル、192メートルとなっております。

JFA ジャパン・ファイナル 2002 にご参加の皆様にお会いし、デモンストレーションが出来ることを楽しみにしております。

フリスビードッグ競技は人とペットが楽しい時間を共有出来る空間を提供してくれます。私もこの空間の一部に入れることをとても嬉しく思っております。

私は32歳、カリフォルニア州アナハイムに住んでおり、ディスカバリング・ザ・ワールド社の取締役をしております。弊社（米国フリスビー・ブランド免許取得）は1986年からフリスビー・ブランドを製作しております。私自身は1984年から競技に携わってきました。

1994年10月に、私は故アーブ・ランダー氏やエルトン・マッキンタイア氏の仲間に加わり、20年以上に

わたってフリスビードッグ遠距離競技に於いて世界記録であった102メートルの記録を破りました。私の記録は118.9メートルで、シェンヌ・アシュレイ・ウィペット（あの有名なアシュレイ・ウィペットのひ孫に当たります）が私のフリスビーを捕らえてくれました。その時以来、私はフリスビードッグ活動に関与するようになり、2001年まで、アシュレイ・ウィペット、アプロ、スカイハウズ（2001年途中、スカイハウズを退く）などの競技で審査員をしてきました。

皆様と御一緒に出来ることを楽しみにしております。

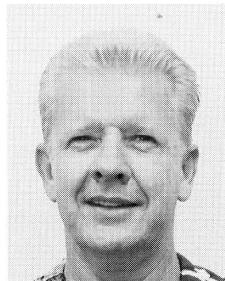
今回、日本の競技にお招き下さいましたJFAを始め、会員の皆様に感謝申し上げます。



Mark Molnar celebrates his World Record toss of 130 yards to Cheyenne, held by owner Irv Lander.

- Jim Safford photo

左 マーク・モルナー氏 右 フリスビードッグ創始者 故アーブ・ランダー氏



エルドン・マッキンタイア

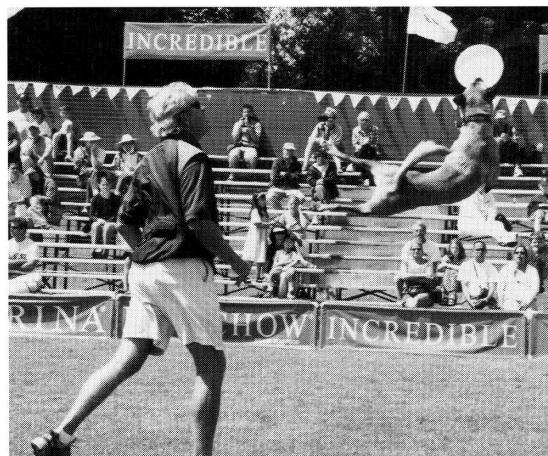
マッキンタイア氏はここ30年間フリスビードッグ競技に関するあらゆる方面に携わってきました。マッキンタイア氏は米国フリスビードッグの創始者の一人であり、また犬の在宅管理に関しては、成功例となる訓練方法を開拓したことで知られています。初期アシュレイ・ウィペット・フリスビー世界選手権では、故アーブ・ランダー氏やアレックス・ステイン氏と共に参与し、「理事」の役割を果たしました。又、マッキンタイア氏は犬と飼い主とのフリスビードッグ競技の進展にも貢献しました。

「楽しくやれば、愛犬も競技をしたがるもの」という理念に基づくマッキンタイア氏の取り組みは、思いやりがあって楽しい方法であることが世界中に実証されています。主な興行として、『ホワイトハウス』『スミソニアン航空博物館(ワシントンD.C.)』『スーパー・ボーラー・フットボール(ルイジアナ・スーパー・ドーム)』『金の首輪競技大会(イタリア)』『コマーシャル(日本、アメリカ)』『ペット博覧会(ラテン、アメリカ)』などの実績があります。更に、合衆国内の各地で数々の競技大会、講習会、犬に関する行事などを行っております。マッキンタイア氏はハイバー・ハンク(オーストラリアン・シェパード犬)との遠距離競技でギネスブックの初期世界記録を保持していました。現在の「公表」記録保持者もまたマッキンタイア氏の訓練を受けております。

日本を訪れる機会をいたいたい事、またデモ等に参加させていただける事はとても光榮です。

日本での競技について良く知り、フリスビードッグに興味をお持ちの皆様と交流を深めたいと思っております。意見を交換しあったり、一緒に有効な展望を築きあげる事が出来たら嬉しく思っています。

パーティーでも御一緒に楽しい時間を過ごしましょう！！



昨年の9月11日から1年が経ち、念願かなっての 「ハイパーディスクワールドチャンピオンシップ!!」

今年度のJFA代表選手3名3頭がアメリカの地を踏んだ。

高坂健一& Mousse チーム、早川利幸& BEAT チーム、大塚裕& JACKY チームはさまざまな思いを秘めてフィールドに立った。その心境を各選手に手記として紹介致します。
結果は高坂健一& Mousse チームが第4位とすばらしい成績を残し、大塚裕& JACKY チームが第7位。早川利幸& BEAT チームが第11位と出場チーム18チームの中、大健闘の活躍でした。この手記を読んだ皆さんも是非大きな拍手を送ってくれる事でしょう。本部一同、心から感謝し、今後の活躍も期待しております。

ワールドファイナル参戦記

高坂健一& Mousse

9月17日

自宅を出るときのMousseは、不安そうに鼻をならしていた。空港に着いて検疫所でもバリケンに入るのを嫌がっていたがいよいよ飛行機に乗り込むときは、かなり落ち着いた雰囲気で僕も安心した。一度経験しているからなのだろうか？
15時35分定刻にDL056便は、日本を発つ。と思ったが少し動いて止まってしまった。16時08分日本からアメリカに向けて僕とMousseは、飛び立った約12時間のフライト。
現地時間、午後3時10分頃、アトランタ、ハーツフィールド国際空港着Mousseが心配だ！早く逢いたい。
やっとMousseと逢えた。しかし空港の構造上Mousseをまた空港職員に預け人間のセキュリティチェック。それがとてつもなく長い時間に感じられた空港のロビーでMousseと逢えた。
スーツケースを受け取り歩いていると、Mousseのゲージを引っ張りダッシュしているアメリカ人らしき人物を発見慌てたがよく観るとピーター氏がニコニコしながらゲージを引っ張っていた。途中ケージが横倒しになつたが、強引に空港の外に持つていった。ホテルチェックイン後ピーター氏と遠征組みと食事を食べた。ピーター氏と同席だったので、おごってもらった。
夜11時30分頃部屋に戻る。その後TBSのK氏とプレイヤーのH氏と打ち合わせをしながら酒を飲む。午前1時30分頃寝る。

9月18日

朝から雨…。ホテルの朝食を食べに行つたが、マズイ！無料の意味がわかった。パンが何だか、汗臭い。コーヒーを飲んで終わりにした。
午前10時にロビーに集合。午前11時に獣医に帰国の為の書類をもらう為Mousseをみてもらう。
USDAは、ピーター氏が代理で行ってくれるらしい。そのときにリュックに入っていた交換用のフリスビーをピーター氏に見られてしまった。一言「Bad boy」その後ピーター氏の自宅でディスクコレクションを見せてもらう。
昼は、オムレツを食べた。とても大きく卵を8個ぐらい使っているだろう。こんなのが食べていれば、確実に太る。食後、大会会場を見に行く。芝の状態は、Berry Good！
午後3時頃ホテルの部屋に戻る。ビールを飲みながらウトウトしてしまった。夕食は、昼のオムライスが尾を引き、コンビニで買ったカッパラーメンで済ませた。
Mousseがとても、甘えてくる、馴れない環境で不安なのだろう。Mousseをベッドに上げると安心したのだろうか爆睡している。Mousseの寝顔がとってもかわいくみえた。

9月19日

午前3時頃目覚めてしまった。夜11時30分頃寝たのに…時差ボケなのだろうか。アトランタの朝は遅い、7時30分頃から明るくなてくる。
午前8時頃ホテルを出発。アメリカへ来て最初で最後の練習を大会会場です。Mousseの調子はGood Conditionだ。
昼は、TBS「Zone」Eチームとメキシコ料理を食べた。
日本との時差を考えて今日初めて電話した…と言うよりも電話のかけ方を覚えた。
夕方より続々とファイナリストがチェックインはじめた。
挨拶をしたがそれ以上は、英語が話せないので…。毎日500投、投げ練するチャック・ミドルトン。去年のワールドチャンピオンのデビット・ブーツ。デビットは、日本語が少し話せると言っていたが「もしもし」「こんにちわ」と言っていた。それだけじゃあ、会話にならない。ボブ・エバンスも居るらしいのだが、観てない。
夕食は、TBS「Zone」KチームとEチームでステーキを食べた。取材対象者のH氏達とたわいもないおしゃべりをして楽しい時間を過ごした。夜ビールをコンビニに買いに行くときにボブ・エバンスと会う。とっても大きなおじいさんだ。

9月20日

午前4時起床、いよいよ明日が本番だ。Mousseの身体のサイクルを当日に合わせる為に少しずつ朝食の時間をずらしている。
午後からアメリカのTBSテレビが日本選手団を取材する為会場のライフ・ユニバース・シティーで収録。Mousseのコンディションを考えると本当は行きたくない。かるく流す程度と言う事で了承してもらった。
ホテルに帰ってファイナリスト達とディスクの交換。デビット・ブーツがMousseのディスクを気に入ってくれた。もちろんサインもした。





K氏とコーディネーターに連れてダウントウンのフリスピーショップで買い物をする。そこで、薬の売人らしき男に声をかけられてちょっと、ビビッた。

その後、家に電話するシーンの撮影それから夕食。12時頃寝る。外は雨、雷が凄い。……

9月21日

午前4時起床、Mousseのコンディションを考えて試合開始時刻より逆算して朝食を食べさせる。いよいよ今日だ。Japaneseラブの…いやMousseの能力を世界にアピールするときが来た。

午前8時、昨日の雷は、収まつたが霧雨が…会場入り、グラウンドコンディションは芝が濡れている為良くない。取材の関係で他の日本人選手と離れたところに席をとってもらった。

開会式では、君が代とアメリカ国歌が流れ心にジーンときてしまった。

フリーの順番は、1~10番までがその地域の2位又は3位通過のチームが11~18位までは、その地域の1位通過のチームがくじを引いた。Mousseは、12番だ。緊張していないと言えば嘘になるがとても、リラックスしていて、とにかくワクワクしている自分に気がついた。

1R…Mousseと僕の名前がアナウンスされコートセンターでいつもの儀式。そう、芝をとり風も無いのに風のチェック。

会場にGet Readyが流れMousseと僕だけの時間になった。ときおり聞こえる声援と10秒前のアナウンスが聞こえた時は完全にフィニッシュの体勢だった。時間が余ってしまった。出場者やギャラリーがGood job!と声を掛けてくれたり握手やサインを求められたりと、Mousseの事をたくさん誉めてもらった。一番嬉しかったのは、96年のファイナリストスティーブン・ヒーターに声をかけてもらしたことだ。妻、メリッサのディスクを貰いサインもして貰った。

2R…4投、僕ミス1投、Mousseのミス1投。ここでのミスがその後、悔しい思いをする事になるとは…。

3R…ファイナリストの3Rは、気合の入り方が違う。1R、2Rの得点差を3Rで逆転しようとしている気合の入り方が違う。1位とは、10ポイント以上離されてしまったが僕は、諦めない。しかし上位の選手のミスを待っているのも情けない。3Rは、パーフェクトを狙う!一発逆転!

僕の順番が来た。最後の120秒。グラウンドセンターに立ってMousseに何か話し掛けていた。120秒後…3投のミスしかし出場チーム中最高ポイントをGet! Mousseコールの中コートを出した。

表彰式、下位から名前を呼ばれる。

4set…Kenichi&Mousse

4位とは、悔しいが僕のトレーニングした犬Mousseがファイナリストやギャラリーに認められた。

「I like Mousse!」「No.1 Mousse!」

それは、凄く嬉しかった。僕とMousseにとって、足掛け2年待ち遠しかった日があつと言う間に終わった。

その後、スカイハウズオフィスでパーティー楽しい時間を過ごした。ホテルに帰って日本へ結果報告。明日、Shampoo・妻・子供が待っている日本に帰ろう。

9月22日

朝6時にホテルをチェックアウト。7時頃空港のチェックインカウンターで問題発生。犬に対してケージが小さいとクレームを付けてきたこのままでは、飛行機に乗せない。

デルタのゲージなら良いと…買わせる気だ。一瞬怒鳴ろうとおもたが、冷静に通訳を交えて話したらしぶしぶOKした。しばしMousseとの別れ。日本に帰ってから、Mousseは、検疫に入る。

9月23日

成田に午後1時30分頃着。僕とHビート氏のトランクが飛行機に載つていなかった。そこで、まず一度目の怒り…。検疫所で自宅検疫をと粘ったが…絶対に、係官は首を立てに振らなかった。Hビート氏は、説明に納得が出来ないと、成田に泊まるらしい。Mousseとわかれると、Mousseが吠えていたのが気がかりだ。

9月24日

朝、Hビート氏より電話があった。今から、帰ると…本当に成田に泊まつたのだ。頑固な男日本一だ。デルタよりスーツケースが成田に着いたと電話があった。しかし、スーツケースにビビが入っているとも言ってきた。デルタは最悪だ。今日が検疫係留、1日目だ。がんばれ!Mousse!必ず迎えに行くぞ!

ワールドファイナルの感想

高坂健一&Mousse

今回で二度目の渡米。

1人のフリスピードッグプレイヤーとして我がチームがアメリカのファイナリスト達とどこまで戦えるか? ファイナリストは、どんなトリックやプレーをするのかこの眼で観たくてワクワクしていたが思っていたほどのレベルの差はなく日米の差は殆どないだろう。

主催者のホームページ2002年ワールドファイナルのリザルトを観ていただければわかると思う。

我がチームの成績は、満足していない。ジャッジに対してではなく、自分自身に対しての不満だけが残った。しかし、Mousseがファイナリストやギャラリーに絶賛されたのはとっても嬉しい最高の喜びだった。

また、アメリカに行きたい。



WorldFinal

早川利幸&BEAT

8年前にフリスピードッグというドッグスポーツを知った。初めて3年前にアメリカ、ワシントンDCにワールドファイナルを見学に行って以来、いつかこの場に立ってみたいという夢を持っていた。その夢がかない、去年のジャパンファイナルで今回のワールドファイナルの出場権を獲得する事ができ、今度は出場者としてアメリカに行ける事になった。10数時間のフライトと手続き等でビートにはたくさんの負担をかけてしまうが、9月17日、アメリカ、アトランタで行われるワールドファイナルに向けて愛犬ビートと共に成田を出発した。順調にフライトは進み、昨年のテロ事件のような出来事も起らず、無事にアトランタへ到着することが出来た。USスタッフの出迎えを受けアトランタに降り立つ。思っていたよりも気温は高く、曇っていたにもかかわらず蒸し暑かった。これで晴れたら相当暑くなるなあーという感じの気候だった。

早々に運ばれてきたビートの様子を確認した。特にフライトによる影響は見られないようなので、まずはひと安心した。レンタカーを借りて、あらかじめファイナリストのために予約されていたホテルへ移動する。ビートの排便と餌をやり、やっとひと心地がついた。アメリカチームも3日後に到着することもあって、アメリカへ着いたものの、気持ちは大会モードにならず、まだのんびりしていた。しかし一番心配なのはビートの様子である。やはりちょっといつもと感じが違う。微妙に目に力がないのが少し気になった。ビートはもともとシャイな子なので、大会までの数日間で環境に慣れてくれるのか・・・。翌日からは大会会場でもあるライフ・ユニバーシティのグランドで練習することが出来た。会場はラグビー場でグランドコンディションはまあまあの状態だった。さっそく、アメリカへ来ての最初のディスクでの練習を行うことになった。いつものような動きをビートがしてくれるのかどうか、内心心配しながらの練習だった。ビートは普段、家では部屋飼いではない。ホテルの部屋でゲージに入れて過ごしていることや嫌いな車での移動のため、アメリカに来てずっと暗い目をしている。ディスクをバックから出し、テンションを上げてみると、すると、暗くなっていた目もディスクを見たら、いつもの目の光を取り戻して来た。ほっ!まずは簡単なトスの連続、思っていたよりも動きが良い感じだった。

つづいてオーバー系からボルト系へと練習を進めていく。ビートはいつもどおりの動きをしてくれた。ひとまず安心。人も犬も久しぶり思いっきり動くことができ、少し体と気持ちが軽くなった感じがした。大会前々日まで何度も練習を繰り返した。ディスクをやっている時はビートも調子が良く、順調に調整は進んでいった。しかし相変わらずホテルにいる時の目が暗い。大会前日にはアメリカチームも続々とホテルに到着して来た。



その中にはビデオで見たことのあるチームの姿もあった。いよいよ大会は明日!ここへ来てやっと気持ちが高まって来た。9月21日大会当日、アメリカへ着いてずっと天気が悪かったが、今日も曇りで蒸し暑い。早目にホテルを出て大会会場へ向かった。すでに会場はコートもできていて、準備が順調に進んでいた。アメリカのファイナリストも大半が来ていた。コート脇に荷物を運んでいるとPAのテストで日本の国歌「君が代」が流れて来た。緊張感の中にもわくわくするものがあった。

日本チームは、ピータ氏が本部テント横に用意してくれたテントに陣取った。3年前にワシントンDCで見たワールドファイナルと比べると、地理的な影響なのか見ている人が少なく寂しい感じがした。いよいよ待ちに待った本番が始まる。受付を済ませ、大会で着るTシャツ、バックとディスクをもらう。大会参加チームはオープンディビジョン(フリー)18チームと今年から行われるスポーツディビジョン(ディスタンス)15チーム。ビートと私はオープンディビジョンにノミネートされている。準備も整い時間どおりに10時半から開会式が始まると、開会式はJFAのジャパンファイナルのようにファイナリストがひとりずつMCによりコールされ、愛犬と共にコートへ入って行く。コート中央へ並ぶと日本とアメリカの両国の国歌が流された。日本代表のオリンピックの選手になったような気がして気持ちが高まって来た。

開会式のあと全選手で出場順を決めるくじ引きを行う。アメリカでの大会の進行がわからないのでトップだけは避けたいと願いながらひいた番号は2番手。もう少し遅い方がいいなと思ったが気持ちを切り替えてがんばるしかない。今回のアメリカ参戦は、ひとりなのでとにかく忙しい。すぐに犬の排便を済ませてビデオカメラのセットをすると、トップのチームの様子をゆっくり見る時間もなく自分の出番が迫ってくる。ビートのテンションを直前に上げてみた。良い感じだ。何とか大丈夫そうなのでいったん落ち着かせてコート入り口でいつものように待たせておく。

トップのチームが終わり、さあ、いよいよ私とビートの出番だ。ビートは大丈夫なのだから取りやすいディスクを投げてあげることを心がけるように「いつもどおり、いつもどおり」と自分にいいきかせコート中央へ進んだ。初めて日本人のプレーを見るアメリカ人がほとんどで、きっと興味深々で見ているだろうなと余計なことを考えつつスタートの準備をする。ミュージックスタートの合図を出した。いよいよ始まると思ったらなかなか音楽が始まらない。なにやらMCが私の紹介をしているようだった。少し間があり音楽が鳴りはじめる。最初の一投目、自分が回転してからのトス。ビートはうまくキャッチするが手が伸びていない、少し固くなっている。フリップ、ボルトと1パターンを連続して成功するが、次に自分のスローミスで連続して落とす。その後、数投落とし序盤すでに4投のミス。プレーしながら徐々に焦り出す。焦れば焦るほどミスを犯してしまう。結局フィニッシュは決まったものの最後までペースをつかめず、9投のミスを犯してしまい得点は28ポイント（得点はその時点では発表されず最後にわかる）と納得いかないプレーをしてしまった。ビートはいつもどおり動いてくれたのだから、失敗の原因は全て自分のスローミスだったと反省。

2R目はディスタンス。今度は1Rの成績が悪かったチームから順番に始まる。JFAより狭いコートでのハイパーディスクによる競技は初めてだ。練習の時から少しのリリースの違いで長く投げるとディスクがラインを割ってしまっていたのが気がかりだった。

自分の順番になりスタートラインに立った。本番では更にコートが狭く感じた。この2R目では1R目の挽回をしなければならないので、かなり開き直って投げた。1投目。ど真ん中に飛ぶ。3ポイントエリアだっただろうか、ビートもうまくキャッチしてくれた。続く4投すべてがど真ん中に飛び、5投連続キャッチ成功。MCのポイント発表を待った。なんと今大会ディスタンス最高ポイント20.5ポイントを出す。

その結果、2R終了時点で一気に3位まで上がってきた。残るのは3R目のフリーのみ。いつもどおりにプレーすれば何とか良いところへ残れるかもしれないと思った。そして3R日のフリーが始まる。気負い過ぎたのか気合が入り過ぎたのか、

1R目に比べてミスが目立つ。半分近くミス。最悪！結局、最後のフィニッシュも決められず、2分間が終わってしまった。ポイントは今まで日本でも出したことのない最低の点数の22ポイントだった。自分のメンタルの弱さでつぶれたプレーをして、情けないのとビートに申し訳ない気持ちでしばし呆然としていた。

あらためて、人のメンタルの強さと犬に取りやすいスローとトスの正確性の重要さを感じさせられた大会になった。最終の大会の結果は11位という順位で大会は終わった。しかし、JFAから一緒に挑戦した高坂&ムースチームが4位と大塚&ジャッキーチームが7位という好成績が残すことができたことは喜ばしいことである。また、今回、日本から出場したチームが皆感じていたことと思うが、アメリカとのプレーの差は感じられなかつた。自分の気持ちの中では、結果は良くなかったものの、そのことが今回の収穫だったと思う。しかしアメリカチームのプレーに大胆さやおおらかさの感じることができ、そのプレーを間近に見ることができたことは自分のプレーにも非常に参考になった。結果としてとても良いアメリカ挑戦になつたと思う。

大会終了後、大会スタッフ、プレーヤーと共にパンケットで楽しいひとときを過ごし、長くて短かったアメリカでの7日間が終わった。

今回このような機会を与えてくださったJFA、そしてピーター氏をはじめとする大会スタッフの皆さんやアメリカチームの皆さん、一緒にアメリカに行ったJAPANチームの皆さんと同じ大会を楽しく過ごすことができたことをうれしく思います。お疲れ様、そしてありがとうございました。

“Good job & Thank you”

最後に…

今日、アメリカから帰国して2週間の長い検疫を終えてビートが自宅に帰って来た。自宅に戻るやいなや、大はしゃぎで庭を走り回っていた。ビートは自己管理ということで毎日、餌と掃除をしに検疫所に行っていて顔を合わせていたが、絶え間ない飛行機の騒音と慣れない環境にかなりストレスを感じていたと思う。また、一緒に帰って来たJAPANチームのメンバーの犬たちもそれぞれがみな元気に自宅に帰つていった。犬たちにはたくさんの負担をかけてしまったが、人も犬も元気にそれぞれの家に帰ることができ、各チームの今年のワールドファイナルへの挑戦は無事に終わった。JAPANチームの皆さん、そして愛犬たち、お疲れ様でした。

《ワールドチャンピオンシップ最高!》

大塚 裕&JACKY

2002年9月17日、成田を飛び立ってから約14時間後、日本代表チームはアトランタへと降り立った。昨年の9.11の悪夢から1年、僕は特別な思いでアメリカの地を踏んだ。初めて日本代表の権利を取得してから1年半、JACKYにとってはとても長い時間が経過していた。今シーズン、6歳を迎えたJACKYはシーズン当初より調子が上がり、春から夏にかけては思い切ってフリーは休養させた。だが、9月にはいつても調子は上がってこず、果たして日本代表として恥ずかしくないプレーができるのか、不安を抱いたままの渡米だった。BINGO！にしても夏場のヒートを挟んで別の犬の様に不調が続いていた。

ワールドチャンピオンシップ当日、朝6時。JACKYとBINGO！を散歩へと連れ出すと、外は雨が降っていた。天気予報では一日中雨模様だと言っていた。すこしブルーな気持ちでホテルを出ると、日本代表チームの面々がテラスでタバコを燻らせていた。犬飼は早起きだ。サマータイムなので、7時を回る頃からやっと明るくなるのだが、みんなの生活のリズムは変わらない。ただ、この日は幾分、みんなの顔が引き締まって見えたのは僕だけだったろうか。

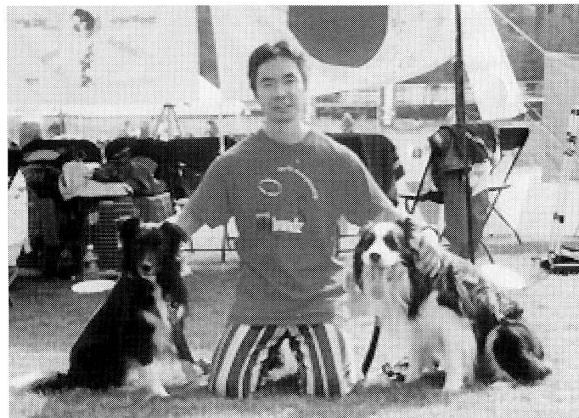
8時過ぎにホテルを出発し、大会会場であるライフ大学へと向かった。会場は毎日の練習の為に開放してくれていたので、グランドコンディションは把握できていたが、昨晚からの雨で、場所によっては水がやや残っている。この辺りはかなりの雨が降ったようだった。しかし、大会の準備が進むにつれ、雨が小振りになり、そしていつの間にか雨はすっかり上がっていた。グラウンドも水はけは良い様で、競技に問題の残るフィールドは残っていないようだった。

会場のギャラリーはお世辞にも多いとは言えず、のどかな空気が流れ、拍子抜けした感じがあった。しかし、選手紹介の時に「君が代」が流れると、急に気持ちが引き締まる。アメリカ歌が流れた時の彼らの表情もまた自信に満ちていて「ああ、とうとう代表としてゲームが出来るんだ。」と力が湧いてきた。「早くゲームをしたい。」そんな気持ちになった。

抽選で演技の順番が決まっていく。始めに各地区のTOPグループが後半の順番を引いていき、2・3番グループが序盤を引くという手法だった。馴染みの選手がくると、誰となくクジ順を冷やかしている。日本と代わらぬ光景だ。妙に嬉しくなって、一緒に笑う。そんな碎けた雰囲気の中、JACKYはオープンの10番のくじを引いた。BINGO！はスポーツの2番だ。

いよいよ競技が始まる。アメリカの代表チームたちが演技を重ねていくと、「……。こんなものか？」そんな感想が頭をよぎる。このところの日本国内のフリーのレベルは急速に上がって来ている。それを痛感していただけにそんな気持ちになったのだと思う。

JACKYの順番になる。やや気楽な気持ちでフィールドに立つと長い間合いのMCにタイミングを狂わせながらも音楽が流れ出す。アメリカでの第1投はキャッチで始まった。良い感じではあったが、何時になくハイテンションのJACKYの動きにタイミングが合わず、途中のルーティンが少々狂いだす。昨日



まで悩み、ボルト系を思い切って外した代わりに差し込んだ技の幾つかが繰り出せずに後半を迎ってしまった。苦しくなった展開だったが、キャッチ数だけはキッチリとカウントしていく。が、終盤の演技は未だ時間を15秒ほど残したところで無理をさせずに終える事にした。

この作戦が裏目に出た。2ラウンドの順番発表の時、下位チームから名前をコールされるが、JACKYは何と2番目、要するにブービーだった。「あの（全体の）演技の中でか？」やや、不満を抱いたが、確かに良い出来では無かったので、どういったプレーがジャッジに評価されるのか、考え始めていた。高得点をマークしたチーム、意外とポイントが伸びなかったチーム。漠然としたイメージだが、ファイナルラウンドのヒントを探した。

次にスポーツDIV.の競技が始まったが、BINGO！には済まない事をした。僕のミスによって満足できないポイントに終わる。暫定の4位だっただろうか。ディスタンスは完全に日本のプレイヤーの技術は通用する。そう確信したが、次のファイナルラウンドも含め、ミスを重ねて苦い思いをしたゲームになった。日本代表チーム全て同じような展開で、「手が届く！」を感じただけに悔いの残る大会となってしまった。BINGO！の結果は6位、「今日はこの辺で勘弁してやる。」

オープンDIV.の2ラウンドはディスタンスだ。JACKYに耳打ちをする。「得意だよな。ディスタンスで捲くるぞ！」既に日差しもあるって、気温が気になりだしたが、JACKYのテンションは高い。ディスクを弾かれる心配をするほどだった。

僕等の気持ちちは一つになり、スローもキャッチもお決まりのディスク拾いさえTEAMへろHEROらしいプレーで4本をきっち





り決めた。先ほどのBINGO！のまずいゲームも教訓になっていた。この満足のいくゲーム運びで順位も中盤の10位ぐらいまで上げたようだった。

ファイナルラウンドが迫っていたが、もう既に順位の事は頭から無くなっていた。

「お前を見せ付けて帰るぞ。JACKY らしさを全部出すぞ！頑張れ！」奴に耳打ちした。上昇していく気温、日差し、朝からは想像できないコンディションの変化に戸惑いさえ覚えていたが、JACKY に水をかけながら出番に備えた。

ラウンド1とスタート位置を反対にして、ジャッジから見えるサイドを替えた。そして、僕等が今出来る策、ディスクマネジメントの考えを変えて臨む。

相変わらず間の悪いMCの癖は掴んでいたので、スタート前のもたつきも気にせず、演技に入ることが出来た。スタートのステップも間を替えて望んだためか、JACKYとのコンビネーションも良くなったように感じて第1投を投げる。キャッチ。

JACKYに気持ちが通じたのか、動きが活発だ。その動きに負けないように動く。大きなミスは出でていない。プレイそのものが楽しくて仕方が無かった。こんな気持ちを思い出させてくれたのは先週の国内の大会、不調のJACKYの代わりにプレーした息子のBRAVO！だった。まだ、よちよちフリーだったが、楽しむ事を思い出せた。その事が、JACKYとのフリーの考えさえも思い出してくれた。これだけ沢山の構成でキャッチができる。派手なジャンプはしない、それでも素早いリターンで大きくフィールドを使える。「良いぞ、良いぞ。」手を叩きながら僕もまた走っていた。トスを上げていた。

ファイナルラウンドは2分間、時間一杯にプレーする事を決



めていたので、JACKYには辛かっただろうが、最後までテンションは落ちなかった。そして、10秒前のコール。逆立ちをして思い切って投げたアップサイドダウンのディスクは何時に無く綺麗な弧を描いて落ちてくる。それをスローモーションがかかつたように JACKY が捉えた。

「やった!!」ガツツポーズが出る、2度、3度、拳に力が入った。テクテクと戻ってくる JACKY が笑っているように見えた。誇らしげに見えた。眼頭が厚くなって、少しだけ上を向いて笑った。ここまで長かったが、達成感と満足感に溢れていた。「良くやった。」奴の肩を叩いて走った。

タープに戻るといつもは口うるさいカミさんが眼と鼻先を真っ赤にして JACKY に近寄ってきた。それだけ JACKY のプレーが嬉しかったんだろう。彼女もまたチームの一員だったから。

全ての競技が終わり、順位が発表されていくが、JACKY がなかなかコールされない。ラウンド2から順位を落とすだろうと考えていただけに意外だった。

そして、何と僕等よりも先に昨年の覇者、デビット・ブーツ&エキジビジョンが9位でコールされた。彼らのプレーはエキサイティングで僕はとても好きだったので、彼らよりも上をいったことが信じられず、でも、それだけにとても嬉しい気持ちになった。「お前は世界の仲間入りをしたぜ。」 JACKY に向けて呟いた。

結果は第7位。今シーズンの不調からすれば奇跡が起きたような順位だった。「奴は大舞台に強い。」そんな気持ちさえ思い出していた。僕にとって大満足の結果を得る事が出来た。

大会を終えて感じた事は、技術的に日本は引けを取っていない。世界には手が届く。

むしろルーティン、ディスクマネジメントは日本が上を行っているかもしれない。ただ、犬と楽しむマインド、ミスの少ない確実なトス、大胆な犬の動きを引き出すボディワーク。これらはアメリカの技術の高さを個人的には感じ取っている。

また、ワールドチャンプ達がジャッジをしてくれることも選手の信頼が厚いポイントだろう。今回の JACKY の地味なプレーが評価された事も「飛ばない犬」が世界を目指しても間違っていなかつた事を裏付けてくれた嬉しい出来事の一つだった。

今回、海外の選手達とこうして直に接する機会がもてた事は何にも変えがたい経験になったし、とても楽しい気持ちでプレーができた。素晴らしい大会だったと思う。

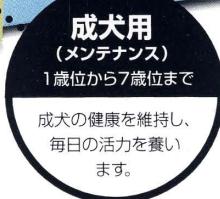
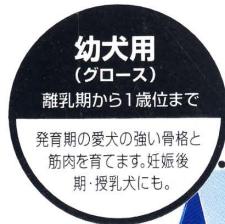
ただ、今後もっともっと国際交流が盛んになってルールの国際基準が整った時、このスポーツが眞の意味で世界に認められるようになるだろうと思っている。その実現を心から待ち望んでいる。

最後に、世界への扉を開けてくれたスタッフの方々、応援してくれた多くの仲間達に感謝します。ありがとうございました。

【飛皿犬】万歳！

栄養バランスにも、素材選びにもこだわりました。

1袋で良さがわかるプレミアムフードです。



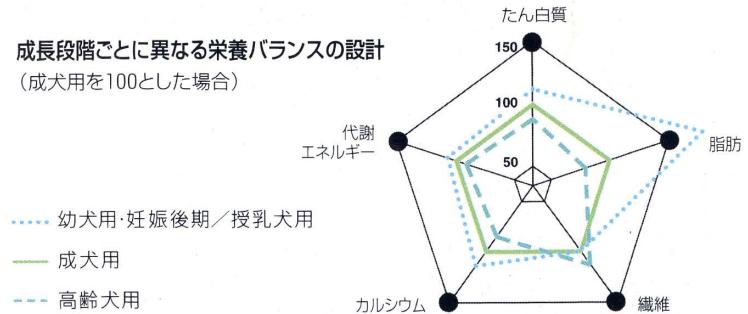
1ST CHOICE おいしさとヘルシーを両立した世代別健康管理食 ファーストチョイス



私たちが、年齢によって必要な栄養が異なるように、犬にも成長段階に適した栄養バランスがあります。ファーストチョイスは、獣医師が開発した、カナダ生まれの世代別健康管理食。おいしさとヘルシーさを両立した理想的なドッグフードです。

- おいしくて消化吸収に優れた、鶏肉と食用コーンが原料。
- 過剰な動物性脂肪をカットした、低脂肪/低カロリー食。
- 病気の予防を考え、植物性油脂を使用した低コレステロール設計。
- 皮膚の健康を維持し、美しい毛艶を作る、必須脂肪酸とミネラル配合。
- 腸内生菌を活性化し、便質を安定させる食物繊維と酵母入り。

成長段階ごとに異なる栄養バランスの設計
(成犬用を100とした場合)



※ファーストチョイスには愛猫用の世代別健康管理食のラインナップもあります。